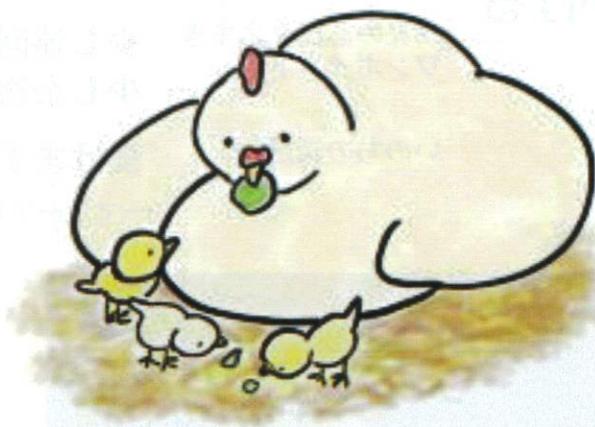




エサをほしがる  
ヒヨコに  
おやどりが



心をくたく

心をかける

砕く 掛ける

細かくするというのが「砕く」ですね。こころを細かくする  
ってことは？一緒に思い悩むとか、注意深く相手をこころに  
止めるってことですね。  
掛けるというと、かぶせるということ。心を掛けるは、  
思いやるとか、子どもの立場に立つってことです。要するに  
「心を砕く、心を掛ける」という掛け言葉は、親鳥がどのよう  
な気づかいてひよこの成長を見守っているかという例えなの  
です。

自分と相手の心の交流

人間の心の交流というのは互いの立場や思いを大切にする  
ということが大事なのは当たり前のような事です。が現実  
はどうでしょう？中には親子でさえ「自分本位」を押し通そう  
という現象まであります。互いが成長することができませ  
ん。親子といえども、親子ではなくても、互いに心を通わせて  
成長しあうということが「同行教育」(どうぎょうきょうい  
く)の一番大切なことです。「くだかけ」は同行教育ですか  
ら、こういうことがはずせない事なのですね。

乳幼児期には  
児童少年期には  
青年期には

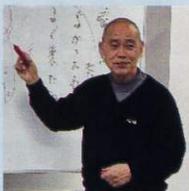
対等な立場の人には

例えば高齢者のように年長者には  
そのように立ち位置を変えて「心の交流」はどうしたらいい  
か考えてみてください。決して自己中心的な判断ではない  
「心の在り方」が見つかります。  
それで「くだかけ」は「心を砕く、心を掛ける」という掛け  
言葉を提唱しているのです。  
今のような分断の時代に差し掛かるとますます大切なこと  
になります。

ニワトリの子育て

実際にニワトリたちはどうしているかといえば、ヒヨコが小  
さいうちはお母さん鶏の羽の下で温かく大切にされていま  
す。おいしそうな虫を見つけては、お父さん鶏やお母さん鶏  
はヒヨコに「これ美味しいよ」と教えたりしています。しかし、  
大きくなって声変わりする頃、急にお母さん鶏は羽の下から  
強制的に追い出すのです。親離れ子離れですね。それは見事  
です。

和田重良 (山の茂吉)



1948年 小田原市生まれ。  
東京教育大学(現筑波大学)卒。  
1978年、「くだかけ会」をはじめ。神奈川県丹沢山  
中のくだかけ生活舎において、多くの青少年たちと共同  
生活を実践してきたことを基盤に、これからの子どもた  
ちの心を豊かに育むための提言を発信し続けている。  
中日新聞に「コラム、SYD月刊」愛に連載中。  
「両手で生きる」悩める14歳など著書多数。